

## 価値ある取り組み事例の共有が大切 支援対象やテーマにも広がりを

——設立10年の区切りを迎えましたが、それも踏まえて今後の取り組みの展望などをお聞かせください。

●理事長 財団活動の主軸は、褒賞・助成事業ですが、これは地域医療に真剣に取り組んでおられる方々の価値ある事例を掘り起こし広めることで、他の皆様の次なる指針にしたいというものです。その発信も含め、今後も取り組みを強めていきたいと考えています。

●副理事長 一昨年に副理事長を拝命し、まさに自分事として意識が大きく変わりました。これから先に向けて、よい部分をいかに持続し、改善すべきをどう変えていくかということについて、色々学びながら思案しているところです。褒賞・助成については、より対象を広げるとともに、支援させていただく期間もケースによっては果たして1年間でよいのかとも。また資金面のみならず、実行段階においてはスギ薬局の店舗として具体的にお手伝いする方法などもあると思います。

●理事長 活動は無論、すべてがうまくいくわけではなく失敗もありますが、それも財産です。その結果を開示することで、別のアプローチ開発につながり得ます。対象の幅を広げ、事例をいかに共有していくかが最重要。そのきっかけづくりが大事なのです。

——地域医療における薬剤師の役割も変わります。

●副理事長 スギ薬局の事業自体が薬剤師をベースとしていますから、



杉浦 伸哉  
副理事長

地域医療における町の薬剤師の機能をもっと強めていきたいし、その活動を積極的に応援していきたいです。  
現在、地域の薬局が様々な健康づくりの取り組みを展開していますが、その大半がボランティアです。それを財団が資金助成でサポートしたり、場合によってはスギ薬局の薬剤師も共に活動したりという形で背中を押すこともできます。薬剤師がもっと地域のお役に立てるよう、私自身も薬剤師ですから、ここは強調したいところです。

——取り組みテーマについてはいかがですか。

●副理事長 これから薬剤師が取り組むべき大きなテーマのひとつは、がん対応だと思います。ただ、それを薬局の現場で学ぶことは難しいので、財団が体験や発表の場づくりを助成し、褒賞する仕組みをつくれば、薬局もがんをもっと身近なものとして取り組めるようになります。薬品の適正使用も併せて薬剤師として最も活躍できる分野ではないかと思います。

●理事長 薬剤師がそうした形で介在することで、患者さんが満足の途中で最期を迎えられるようになります。私も両親をがんで亡くしましたが、最期まで家族に寄り添われ、ふたりとも「幸せです」と言って逝きました。その中に薬剤師もいるべきではないでしょうか。町の薬剤師には、がん

はまだ遠い存在ですが、そのままではいけません。自宅で幸せな気持ちの中で、最期を迎えられるということが当たり前になっていけばいいですね。

●副理事長 薬剤師は勉強好きですから、自分の向かう方向がわかれば勉強します。財団でも、インターネット研修のコンテンツを保有していますので、どんどん活用していただきたいです。

——対象は高齢者医療以外にも広がりますね。

●理事長 これまでは高齢者医療を主に対象としていましたが、年齢ではなく地域が対象だと考えています。地域の方々の生まれてからお亡くなりになるまでの全てに関わり、支えていけたらという思いがあります。

●副理事長 そうですね。その努力のサポートをしていきたいです。スギ薬局の店舗事業自体が地域貢献ですから、その機能も使いながら様々な活動をどうつないでいくかということが大事だと思います。多くの事例を共有し、互いに学び合い、薬剤師の社会的価値をさらに高め、地域の皆様がより幸せになっていくことを目指して、これからも精力的に活動していきたいと思っています。

